

## 大島町復興町民会議 防災まちづくり分科会報告（第1回～8回）

### 1. 開催概要

■毎週水曜日 18:00 開催 総委員数 12 人

	開催日時	検討事項	資料	参加者
第1回	平成26年 5月21日（水） 18時～20時00分	① 分科会の進め方について ② 分科会で取り組む事項について	・議事次第 ・第1回「防災まちづくり分科会」資料 ①大島町土砂災害復興基本方針 ②防災避難計画に係る住民説明会ならびに地域防災連絡会の開催 ③平成26年度大島町「防災まちづくり関係予算」主な事業の概要 ・大島町事前行動計画（タイムライン）の策定および進め方について	分科会委員 11 人 オブザーバー1名
第2回	平成26年 5月28日（水） 18時～20時00分	① 第1回分科会の主な意見を受けて ② 分科会で取り組む事項について（継続） ③ その他	・第1回防災まちづくり分科会概要 ・防災避難計画に係る住民説明会ならびに地域防災連絡会の開催 ・第1回検討のまとめ	分科会委員 11 人
第3回	平成26年 6月17日（水） 18時～20時00分	① 第2回分科会の主な意見を受けて ② 分科会で取り組む事項について（継続） ③ その他	・第2回防災まちづくり分科会概要	分科会委員 8 人
第4回	平成26年 6月20日（金） 18時～20時00分	① 第3回分科会の主な意見を受けて ② 全体会に向けたまとめについて ③ 委員からの提案事項について ④ その他	・第3回防災まちづくり分科会概要 ・第3回までの防災まちづくり分科会概要	分科会委員 9 人
第5回	平成26年 6月25日（水） 18時～20時00分	① 第4回分科会の主な意見を受けて ② 町民会議への報告について ③ その他	・第4回防災まちづくり分科会概要 ・第4回までの防災まちづくり分科会概要	分科会委員 8 人
第6回	平成26年 7月2日（水） 18時～20時00分	① 今後の分科会の予定について	・第5回防災まちづくり分科会概要	分科会委員 10 人
第7回	平成26年 7月29日（火） 18時～20時00分	①防災まちづくり分科会に寄せられた意見について ②復興計画素案への分科会報告内容の反映状況について ③その他	・復興町民会議防災まちづくり分科会報告 ・委員提示資料（2名）	分科会委員 9 人

第8回	平成26年 9月4日(木) 18時～19時30分	①大島町復興計画案について質疑 ②復興計画案に対する分科会からの意見・要望 ③復興の推進体制について	・復興町民会議防災まちづくり分科会報告 ・大島町復興計画案	分科会委員10人
-----	--------------------------------	--	----------------------------------	----------

## 2. 主な意見等

	テーマ	主な意見等
第1回	分科会の進め方について等	<p>○会長の選任について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・推薦により、山田委員（公募）が会長とすることで承認された。</li> </ul> <p>○副会長の選任について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・推薦により、阪本委員（公募）が副会長とすることで承認された。</li> </ul> <p>○分科会の進め方について</p> <p>次の4つの柱に沿って議論を進めていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・防災計画の検証</li> <li>・土木施設、ハード対策について</li> <li>・住民への啓発、情報周知のあり方（体制）について</li> <li>・防災教育について</li> </ul> <p>○議論の取りまとめ時期</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・検討内容を6月末までを目処に取りまとめ、復興町民会議にあげる。</li> <li>・7月目処に緊急性の高い短期的対策（計画の検証等）について、それ以降は長期的対策（防災教育等）を考える。</li> </ul> <p>○分科会で取り組む事項について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・分科会で取り組む事項について委員の意見を付箋に書き出し取りまとめ、以下の分類となった。</li> <li>①避難所、②避難情報（発令等）、③安全な避難の方法、④被災状況、⑤砂防対策、⑥防災意識、⑦避難基準、⑧その他の災害</li> <li>このうち、第1回では①避難所、②避難情報（発令）について意見の確認が行われた。</li> <li>次回以降、残りの項目について引き続き検討していく。</li> </ul>
	①避難所	<p>○環境</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・快適でないと避難が必要な場合にも避難がされない可能性がある</li> <li>・設備だけでなく運用も避難者の状況に合わせて行う</li> </ul> <p>○安全性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難所の安全性が確保されていることが大前提、避難計画を確認する必要がある</li> </ul> <p>○規模</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小規模な避難所について検討</li> </ul>
	②避難情報	<p>○行政の役割</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・防災行政無線、ホームページ、出張所の地図や説明会などいろいろな情報提供を行い、周知徹底を図る</li> </ul> <p>○町民の役割</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の命は自分で守ることが根底になければならない</li> <li>・行政の役割として情報提供と周知徹底があるが町民も受け身のままではいけない</li> <li>・情報を待つだけでなく、町民も身近な自然からの情報に注意することも意味がある</li> </ul>
第2回	第1回の確認と第2回以降の進め方について	<p>○第1回の確認について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前回、4本の柱を立て、そのうち1本目の柱（防災計画）について付箋に書き出しを行い8本の小項目が抽出された。</li> <li>・小項目のうち「避難情報」、「避難所」については議論を終えている。</li> </ul> <p>○第2回以降の進め方について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第2回は③安全な避難の方法、④被災状況、⑤砂防対策について検討する。</li> <li>・なお、4本の柱について、「防災計画の検証」には、砂防・土木施設の内容が含まれているので、4本柱のうち「土木施設・ハード対策」については1本目の柱（防災計画の検証）に含める。</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・6月末までには、1本目の柱を取りまとめることを目標とする。</li> </ul> <p>○次回の開催について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次回開催は、避難計画の説明会終了後の17日とする。議論が終わらなかった場合の予備日として、20日を設定する。</li> </ul>
	③安全な避難方法	<p>○住民の意識</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・被災のあった地区とその他の地区では温度差がある。その意識の差をどう埋めていくかが課題である。</li> </ul> <p>○地域での共助</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の互助力が大切である。どこに自分で避難できない人がいるかを把握し、体制を作ることが安全な避難につながる。</li> <li>・地域に特性に合わせて地域ごとで自主防災組織の編成を考えていくのが現実的である。</li> <li>・安全な避難をするためには、避難する時間帯が重要になる。</li> </ul> <p>○防災に係る情報の周知</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遠くても安全な道を通って避難するというのを訓練でやっておく必要がある。</li> <li>・危なくなってから逃げるのでは遅い。空振りを恐れず逃げることをやり続けると今後の災害には対応できない。</li> </ul>
	④被災状況	<p>○道路の冠水について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上げられた被災状況は道路の冠水が主な内容だが、これに関しての要望が元町地区の住民からだされており、町地域整備課で検討されていることが事務局より報告された。</li> <li>・都と町と連携して道路の排水機能強化を検討している。</li> </ul>
	⑤砂防対策	<p>○砂防対策について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大島の浸透性がよい地質を生かして海に流す前にいかに雨水を浸透させるかという考え方も重要ではないか。</li> <li>・斜面の浅い地下水に考慮した対策を検討してほしい。</li> </ul>
第3回	第2回の確認と第3回以降の進め方について	<p>○第2回の確認について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・柱1「防災計画の検証」柱2「土木施設、ハード対策」で検討中の8小項目のうち「①避難所」、「②避難情報」、「③安全な避難の方法」、「④被災状況」、「⑤砂防対策」の議論を終えたことを確認した。</li> <li>・配布資料「第2回までの防災まちづくり分科会概要」（事務局作成）の内容について了承された。</li> </ul> <p>○第3回以降の進め方について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小項目「⑥防災意識」、「⑦避難基準」、「⑧その他災害」について検討した後、別途行われた避難計画の地区説明会について、柱4「防災教育」についての意見出しを行った。</li> <li>・27日（金）開催予定の全体会に向けて、避難計画の地区説明会への意見出しと検討のまとめを行う。</li> <li>・全体会以降は、土砂災害以外を含めた総合的な防災対策について検討する（予定）。</li> </ul> <p>○次回の開催について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次回開催は、6月20日（金）とする。</li> </ul>
	⑥防災意識	<p>○住民の意識</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難計画説明会に若年者や転勤者の出席が少なかった。</li> <li>・防災意識を維持するために訓練やイベント（植林など）等、工夫が必要。</li> </ul> <p>○町からの発信</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハザードマップ等の配布物で町民の興味を引くのが必要。出張所などでスライド等を共有したり、地域の活動で個別訪問での説明があると全ての人が理解できる。</li> <li>・任意の団体が学習会を開催しているが、学習の機会は多い方が良い。</li> <li>・町としても積極的に情報発信し、防災に対する本気度を伝えていくことが重要。</li> </ul> <p>○自主防災組織</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・防災意識の向上にも自主防災組織は重要。</li> </ul> <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・防災の知識を身に付け、自分の判断で行動するという意識を分科会から発信する。</li> </ul>

	⑦避難基準	○現状への危惧 ・避難勧告の空振りが多くなり災害危険度が軽くみられることへの危惧。 ・避難勧告の空振りを恐れて発令を躊躇するという話があるが、空振りを恐れないためには住民自身が正しい知識を持ち納得することが必要。
	⑧その他	○避難計画 ・自主防災組織の班長は、災害種別に応じた避難方法を知っておく必要があり、班長を中心に住民へ確認しておくべき。 ・土砂災害ばかりに目が向いてはいけない。 ・災害種別に応じた避難計画を整備、活用していく必要がある。
	防災教育	○生涯学習 ・大人への教育を町がどうやってサポートし町民が答えるか。 →勉強会などをコンスタントに続け、参加できない人へも働きかける。 →視聴覚教材の準備。 ○学校教育 ・教師への研修は町教委がリードすることで住民としての意識向上にもつながる。地域の勉強会に教員が研修として参加することも地域にとって有効。 ・防災副読本の作成、地域の伝承や昔話などを盛り込む。 ・「大島は危険で怖い。どう逃げる」だけでなく、自然と共に住む魅力も伝えることが重要。 ・フィールドワーク等で島全体を学ぶことが必要。 ・中学生は避難行動が定着していた。確実に効果が出る。 ・PTSDになっている子どももいるので配慮が必要。 ・警報発令時における学校行事等の統一した開催基準が必要。 ○災害現場・災害遺構 ・生きた教材として島外に発信することも考えられる。 ○地域防災スペシャリスト ・地域に精通した防災スペシャリストを育成し、学校教育の現場にも参画。
	避難計画説明会を受けての補足	○避難所 ・安全性の説明が必要。 ・一部の避難所のみペット受入可能というのは不公平に感じる。 ・収容人員、駐車場の問題（特に警戒を要する地域以外の方が自主避難した場合）。 ○避難経路 ・警戒を要する地域を通過する経路がある。 ○その他 ・消防団詰所の安全確保が必要。 ・観光客等の避難方法・避難場所について、観光関連事業者への周知。 ・自主防災組織について再確認する必要。
第4回	第3回の確認と全体会に向けたまとめについて	○全体会に向けたまとめについて ・第3回分科会までにすべての柱と小項目について検討を終えたことが確認された。 ・これらの検討をまとめた資料案を会長が取りまとめ、第5回分科会で、各委員に確認を頂く。 ○次回の開催について ・次回開催は、6月25日（水）とする。
	委員からの提案	○土砂災害への人工構造物の影響について ・住民の多くが人工構造物の影響を懸念しているので調査を要望したい。 ・本当に御神火スカイライン関係ないのかという意見は住民の中にあり、学会などで説明されたが、住民はすっかりしていない。 ○橋の流木対策について ・新しく作る橋については出来るだけ流木が引っかからない構造にして欲しい。 ・単に復旧するのではなく、なるべく被害を広げない方法を考えて再建して欲しい。

	避難計画説明会について	<p>○自主防災組織の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・泉津は土砂災害に関しては自主防災組織ではない、独自の取組みを検討していて、住民みずから行動するという点で非常によい取組みである。</li> </ul>
	情報収集・伝達について	<p>○情報の共有について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・住民から行政、さらに住民相互の情報共有が必要で、大切なことである。</li> </ul> <p>○情報収集伝達手段</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ツイッターやインターネットだけでなく、広く情報共有をするための方法を検討の課題としてあげるのは良いのではないか。</li> <li>・若い世代が情報をキャッチして高齢者に伝える仕組みを考える。</li> </ul> <p>○住民の主体的な情報収集</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・住民からの情報を集めるシステムというのは非常に大事なことである。 (但し、正確性を担保する仕組みの検討が必要)</li> <li>・住民が避難所で情報を知ることが出来るようにして欲しい。</li> </ul>
	避難所について	<p>○物資等の備蓄</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・物資の備蓄がない避難所があるため、要望していきたい。</li> </ul>
第5回	第4回の確認と全体会に向けたまとめについて	<p>○全体会に向けたまとめについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体会に向け、これまでの議論をまとめた報告書を作成した。</li> <li>・本日の意見を追加・修正し、会長が全体会で発表する。</li> </ul> <p>○次回の開催について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次回開催は、7月2日(水)とし、今後の進め方について検討する。</li> </ul>
	中間報告書への追加・修正について	<p>○避難所について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難所へのペット受入れについての記載に関して、「避難所へのペット受入れについて今後検討をして欲しい」と表現を修正する。</li> </ul> <p>○砂防対策について(柱2含む)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・御神火スカイラインの記述、「復旧は必要」の文言を削除する。</li> <li>・斜面の浅い地下水を考慮した対策～の記述に、「地下水を逃がす方策を合わせて検討する」旨を追記する。</li> </ul> <p>○その他に追加したい事項について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・防災スペシャリストについて、外部の専門家(自衛隊OB等)を雇い入れ指導者としている例がある。</li> </ul>
	避難について	<p>○避難所でのペットの対応</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペットを置いて避難というのでは心が落ち着かないという人もいるだろう。</li> </ul> <p>○避難訓練</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・元町で避難訓練をしようと言っても人が集まるだろうか。</li> <li>・自主防災組織が機能するためには、実際にやってみることが必要。</li> <li>・地域特性に合わせて自主防災組織の編成とあり方を考えていくことが必要。</li> </ul>
	土砂災害対策	<p>○雨水浸透</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・降った雨水を浸透させることを考えたほうが良いのではないか。</li> <li>・地下水を逃がすような仕組みを砂防と併用して欲しい。</li> </ul> <p>○三原山の土砂災害対策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・崩れたところの対策が決まっていなのに御神火スカイラインを復旧するというごときに疑問がある。</li> <li>・専門家に現場を見て検討してもらいたい。</li> </ul>
第6回	第6回の議題について	<p>○第6回の議題について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後の全体の流れがどうなっていくのか、町の説明を受け、その中で分科会としてどうしていくのか意見交換を行うこととした。</li> </ul> <p>○今後の進め方について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・町民会議への復興計画素案の説明を受けて、分科会からの意見についての肉付けや、素案について意見交換を行う。</li> <li>・次回は7月29日(火)を予定する。</li> </ul>
	第3回町民会議に	<p>○町民会議の進行について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体会は回数も少ないのだから、もっと意見交換が出来る形にもらえるよ</li> </ul>

	ついて	うお願いしたい。
第7回	防災まちづくり分科会に寄せられた意見について	<p>○防災まちづくり分科会中間報告への意見への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然と共生する視点に立った防災対策全般についての意見であり、分科会報告においても取り上げられている内容であることから、特に対応について検討は行わない。</li> <li>・改めて重要な内容であるため、分科会委員にはご意見を資料として配布する。</li> </ul>
	復興計画素案への分科会報告内容の反映状況について	<p>○方針① 台風26号に伴う豪雨災害の検証と地域防災計画の改訂</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「4-1-1 台風26号に伴う豪雨災害の検証」とはどういった検証を行うのか。</li> <li>・p.17の方針の記述について、噴火などの記述もあったほうがよい。「4-4-4 災害危険や状況の変化に対応した避難計画の改訂」も同様である。</li> </ul> <p>○方針② 災害情報の連絡体制の再構築</p> <p>「4-2-2 町民への情報伝達手段の整備」について、ホームページはインターネットとしたほうが良い。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害情報に関して、住民からの情報を共有するシステムについても記述すべき。</li> </ul> <p>○方針⑤ 避難施設の強化等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「4-5-7 避難施設の強化」が後期の施策となっているが、前期に入れるべき。</li> <li>・「4-5-8 防災マップ等の改訂」は、防災マップがどういう情報で出来ていて、どう改訂され、どういう状況のときに最新の情報が提供されるのかを知りたい。</li> <li>・備蓄庫やペットへの対応については記載するべきではないか。</li> </ul> <p>○方針⑥ 災害教訓の伝承と地域防災力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「4-6-3 災害の記録の作成」に、「子供たちへの防災教育のため、防災副読本の作成を進める。」を追記してはどうか。</li> <li>・「4-6-4 災害教訓を伝える資料整備」に追記で、復興の柱3方針④観光振興の推進「新たな観光資源の整備と活用」を再掲してはどうか。</li> <li>・「4-6-6 災害教訓の伝承」では「副読本」を編纂して、今後起きうる事態にどう対応していくかを整理して伝えていくべき。</li> <li>・災害の記録誌・復興の記録誌の他に、子供たちの防災教育の副読本は別途作成する必要がある。</li> <li>・災害がなぜ起きたか、大島がどう復興したかを映像でも残す方がよい。</li> </ul>
	その他	<p>○委員からの提案について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・提案については、個人的にパブリックコメント等で提出することとした。</li> </ul>
第8回	大島町復興計画案について質疑	<p>○「大島らしい」とはなにか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・復興計画案 p.4「安心と笑顔があふれる美しい島」というところに、大島がどんなところかということが書いてあるが、ここに書いてあることは大島だけに限らない。もう一歩進んだフレーズを引き出せればよいのではないか。</li> <li>・人との係わり合いは前提として、大島の自然環境や慣わし、先人の知恵を大事にしていくのが「大島らしい」につながるのではないか。</li> </ul>
	復興計画案に対する分科会からの意見・要望	<p>○方針⑥ 災害教訓の伝承と地域防災力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・復興計画案 p.22、主な施策の「4-6-3 災害の記録の作成」について、「子供たちへ今回の災害を伝えるため、副読本を作成します。」と追記されたが、災害を伝えるだけでなく、防災意識と防災力を向上させるという目的が、はっきりとわかるように記述をあらためるべき。</li> </ul> <p>○方針② 災害情報の連絡体制の再構築</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・復興計画案 p.19に追加した「町民が周囲で覚知した～」について、運用はよく注意する必要がある。</li> <li>・使えない人がいるから、やらないということにはならない。完全なシステムとしてはスタート出来ないが、少しずつやり始めていくのがよいのではないか。</li> </ul> <p>○方針⑤ 避難施設の強化等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・間伏と野増で新規整備を検討しているほか、全地区の見直しを検討している。島内避難体制の再構築と合わせてご意向を伺って詰めていく。</li> </ul> <p>○全般</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自主防災組織との連携に向け、組織の再編が非常に重要である。</li> <li>・(長期避難について) 一時提供住宅や応急仮設が出来るまでの間については、宿泊施設の利用や空家対策などと合わせて総合的に考えていく。地域防災計画見直しと合わせて具体化していく。</li> </ul>
復興の推進体制について	<p>○全体の推進組織について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門家、研究者を体制に加えて幅広い意見を取り入れていくことが必要。アドバイザー的な立場からの話や、先端の研究結果などをフィードバックしてもらえるような仕組みが合ったほうがよい。</li> <li>・住民が誰でも自由に参加できる場が必要だと思う。</li> <li>・町と町民と都との連携を継続して、良い復興まちづくりができるように住民としても参加できるような組織にしてほしい。</li> <li>・組織が成長したり、変化しても良い。まず始めてみて育てるしかない。</li> <li>・なるべく早く推進組織を立ち上げ、テンポよく進めていくことが必要。</li> </ul> <p>○元町地区における推進組織について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・内容によってはメンバー、傍聴の制限をする場面が出ると思うが、原則としては島全体の声を元町地区の復興のために出していくことが必要となるのではないかな。</li> <li>・被災者以外が入れない部分も残し、まちづくりには被災者以外の町民も参加する部分が欲しい。</li> <li>・元町の被災者・地権者中心の組織と大島町民全体が参加できる組織、双方が元町地区の復興まちづくり計画について考える仕組みにしてほしい。</li> </ul> <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地区ごと、全島的な防災体制のあり方について復興とともに検討することが必要で、それを検討する組織が必要となるのではないかな。</li> <li>・平成 27 年度に新たな基本計画を策定するので、あえて新たな組織を作らなくても地区ごとに検討することが出来るだろう。そこで防災まちづくり分科会で意見を出してきたことが活かされると良い。</li> <li>・復興計画だけでなく、地域ごとに自治区をつくるように住民との協働ということをうまく膨らませたい。</li> </ul>
その他	<p>○全体会のあり方について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体会は、報告があってそれに対して質疑だけというのでは勿体無いと感じた。今後どうするかというような話は全体会で話し、分科会でさらに詰めるということでも良かったのではないかな。</li> </ul>